

森と共に生きるまち宍粟の

みどりじまん新聞



Vol. 9

令和4年9月号



バックナンバーは
こちら

木育 過去ニュース

2020年6月1日
いちのびあ「もくもく広場」オープン
木のおもちゃも充実



森を知り、未来の林業を活性化

研究者 井上 智礼

私は自然が好きで、日本の林業を活性化させたいという思いから兵庫県立森林大学校に入学しました。今回は、授業やインターンシップ、地域活動を通して得た私の学びについて紹介します。

●森の仕事を支える林業機械

～林業の効率化でより良い森に～

森林大学校では、様々な林業機械の操作を学ぶことができます。実習授業ではチェーンソーを使い、密集している木を適度に伐って他の木の成長を助ける「間伐」という作業を行います。狙った方向に木を倒すためには、木を倒す方向に正確に切込みを入れる必要があります。倒し方によっては命にかかわる危険な作業のため、慎重に進めていきます。木を伐り倒した後は、グラップルやフォワーダと呼ばれる機械を操作し、木材の集材・運搬作業を行います【写真1】。作業にあたっては、実際に林業分野に従事されてこの道40年のプロにご指導

いただき、機械操作に慣れることから始めました。最初は機体の向きを変えるレバーを強く倒しすぎて急旋回してしまったり、掴んだ丸太を離してしまったりと、危険な操作をしてしまい、自信をなくしていました。プロの機械操作は素早く丁寧で、機械をまるで自分の手足のように動かされており、何度練習しても同じように操作できる気がしませんでした。それでも、操作する前の危険予測や授業終了後の振り返りを継続することで、少しずつ操作に慣れることができ、失敗を積み重ねながら状況に合わせた操作を体で覚えることが大切だと身に染みて感じました。



【写真1】フォワーダのレバー操作

●インターンシップ ～仕事体験～

私はインターンシップで中はりま森林組合（姫路支所）にお世話になり、3日間、山での仕事を体験させていただきました。

インターンシップ

3日間のスケジュールと学び

1日目 「巡視」

■作業内容

・雨の日や雨の後、組合が所有・管理している山の作業道が安全に作業を行える状態なのかを現地に行って確認し、写真や報告書にまとめる。

■学び

・危険な場所は見つからなかったが、作業道は作った後も継続的に管理や修繕を行っていくことが大切だと教わる。

2・3日目 「造材・目立て」

■作業内容

・伐り倒した木の長さを揃える「造材」やチェーンソーの刃を研いで切れ味を良くする「目立て」を行い、チェーンソー技術の向上に努める。

・造材作業では、伐り倒した木の枝を切り落とし、木の特徴や用途に合わせた長さで木を切る「玉切り」を行う。

「みどりじまん新聞」は

“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

■学び

・玉切りには様々な切り方があり、木の太さや硬さなど木の種類に合った切り方の手順を考えていないと、正確な長さに切り揃える作業が効率よくできないと教わる【写真2】。

・実習授業でチェーンソーは十分扱える気でしたが、組合の方の作業を見て、自分のやり方では切るのに時間がかかり、効率が悪いことに気付かされた。



【写真2】玉切りのレクチャー

《3日間を通して得た学び》

・木を育ててきた方々の思いを考え、少し傷があるからと木材を無駄にせず、使える部分はなるべく使うという工夫を教わる。

・切り出した丸太を運び出す人が作業しやすいように木の長さを揃えて置くなど、他の人の作業も考えて仕事することが大切だと知る。

・人の繋がりを大事にすることで木材の売買などの取引がスムーズになり、「山を整備してほしい」と希望する人を紹介してもらえなど、人脈を多く作っておくことが将来の助けになることを教わる。



●体験研修 ～地域イベントへの参加～

地域の伝統や風習への理解を深め、コミュニケーション能力を向上させることを目的とした授業があり、地域のイベントにボランティアスタッフとして参加しました。

そのうちの1つ、一宮町染河内地区で毎年開催され、ペットボトルの灯籠が幻想的な夜を演出する「棚田のあかり」では、地域の方に教わりながら、ペットボトルで作った灯籠の中に土とろうそくを入れ、絵や文字を描いて飾りつけます。完成した灯籠は、棚田を埋め尽くすように並べ、火を点けて回ります【写真3・4】。その数全て合わせて約3千個。一つ一つに思いを込めて作するため、思った以上に大変でしたが、地域の方と楽しく会話しながら作業を進め、交流を深めることができました。そして夜には、美しい棚田の景色を味わい、達成感を得ました。また、行事をやり遂げるには当日だけでなく、事前の準備や打ち合わせが大事なことも学びました。



【写真3】土を入れた灯籠の運び出し



【写真4】灯籠の点火作業

●森林大学校で学び、夢を現実に

森林大学校で林業を学ぶ中で、林業は木を伐って売るだけの産業ではなく祖父や曾祖父の世代が大切に育ててきた木を受け継ぎ、材として出す、そしてまた私たちの世代で育て、次の世代に託すといった長期にわたる伝統的な産業であることや、土砂災害を防止するなど森林の持つ機能を維持するために必要な仕事であることを学びました。一方で、山で働く技術者の不足、木材供給量や価格の問題から木材需要の半分以上を輸入に頼っているという、日本の林業の厳しい状況を知り、危機感を覚えました。

私は、国産材が外国産材よりも国内でより一層普及するよう、日本全国の森林の状況を自分の目で見て、間伐など必要な整備を適切に行い、日本各地の森林をより良い環境に維持する仕事がしたいと考えています。今後はその夢を現実にするため、より多くの樹木の種類や特徴を把握したり、森林整備に必要な知識・技術の習得に努めたりと森林大学校での学びをさらに深めていきたいと思っています。



専修学校
兵庫県立森林大学校
Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる
人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校HP



木育は、「持続可能な開発目標SDGs」の実現につながる取り組みです

